

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 芸術文化奨励費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 県民文化局文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-1111(内 2465)

E-mail: c11146@pref.gifu.lg.jp

### 1 事業費 3,598 千円 (前年度予算額：3,808 円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,808	0	0	0	0	0	0	0	3,808
要求額	3,598	0	0	0	0	0	0	0	3,598
決定額	3,598	0	0	0	0	0	0	0	3,598

### 2 要求内容

#### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

芸術文化の各分野において優れた業績を上げ、又は将来その成果が期待できる個人・団体を顕彰又は奨励し、芸術文化の振興を図る。

#### (2) 事業内容

岐阜県芸術文化顕彰及び奨励 (知事表彰)

- ・創設年度 顕彰：昭和26年度 (昭和34年度まで文化助成制度)  
奨励：昭和49年度

・芸術文化の各分野において、優れた業績をあげているものを顕彰し、あるいは顕著な業績、活動を収め将来その成果が期待できるものを奨励し、もって本県の芸術文化の振興を図ることを目的とする。

#### (3) 県負担・補助率の考え方

文化芸術分野における顕彰事業は、文化活動の主体となる芸術家等の人材育成、芸術活動の活性化の一環であり、県が当該事業を実施し、経費を負担することは妥当である。

(4) 類似事業の有無  
無

### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	30	選考委員会謝金
旅費	20	選考委員会費用弁償
需用費	893	副賞（記念品）、一般消耗品、賞状等
役務費	4	返信用切手
委託料	2,622	看板作成委託業務、顕彰公演会開催委託料、記念写真
使用料	29	駐車場使用料
合計	3,598	

**決定額の考え方**

# 事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

継続的に芸術文化等の功績者を顕彰することにより本県文化の継承、創作活動及び芸術文化の振興を図る。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
岐阜県芸術文化顕彰 及び奨励表彰者数	0 (S26)	9 (H29)	8 (H30)	7 (R1)	7 (R3)	100%

○指標を設定することができない場合の理由

--

### (前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

岐阜県芸術文化顕彰及び奨励（7名表彰予定）

選考委員会 令和2年11月開催予定

表彰式 令和2年3月開催予定（清流文化プラザ）

### (前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

岐阜県芸術文化顕彰3名・団体、同奨励4名・団体(令和元年度)を表彰した。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受賞者の業績を発表する場は中止し、芸術文化顕彰及び奨励表彰式のみ実施した。例年、過去受賞者の業績を発表する場を設け、優れた芸術に触れる機会を県民に提供することができている。本顕彰により、優れた業績に敬意を表するとともに、創造活動や文化芸術活動への寄与の意欲を喚起する。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い    △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価)	表彰だけでなく、受賞者による公演会を行い、受賞者の創造活動や文化芸術活動へのさらなる意欲向上を図り、県民に岐阜県の素晴らしい芸術文化を鑑賞する機会を設けることで、芸術文化の振興につながるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	顕彰は、昭和26年創設以来、69回を数え、累計272人・団体を表彰。奨励は、昭和49年創設以来、46回を数え、累計225人・団体を表彰。例年、芸術文化顕彰3名程度、奨励5名程度が表彰されており事業効果が現れている。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている    △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)	副賞について、平成22年度から、賞の趣旨に相応しく、また毎年恒例の表彰として継続して進呈できる記念品に見直した。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 推薦者（市町村、文化団体等）において幅広い表彰候補者の把握が必要である。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本県の芸術文化活動の支援の一環として引き続き事業を継続していく。新型コロナウイルス感染症予防の対策を講じて実施していく。</li> </ul>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	